

台湾の女性の生涯スポーツ見聞記

行政社会学部教授 新 谷 崇 一

はじめに

1992年6月、台湾で開催された「The International Conference on Sport Science at TAIPEI」での発表において、当日私の発表の座長を務めていただいた周仲忽教授との出会いが、台湾の女性の生涯スポーツに関する研究に取り組むきっかけとなった。

発表内容は日本の女子大学生のスポーツ参加形態から女性の生涯スポーツのあり方を探究したものであった。発表内容に興味を持たれた周教授からの、「台湾ではこのような調査はほとんど行われていないので、共同研究者として一緒に調査をして欲しい」という申し出を受け、今日に至ったものである。

帰国後、日本で使用したアンケート用紙を送付し、調査項目を中国語に翻訳して、まず台湾の女子大学生を対象に調査を実施した。調査時期は1992年9～10月である。この調査結果に基づいて1994年7月に台湾の女子大学生に調査票による指示的面接調査(集合調査)を実施して、1994年10月「日本と台湾の女子学生のスポーツ参加に関する国際比較」『福島大学地域研究第6巻 第2号』を報告した。この報告書は、周教授が中国語に翻訳し、台湾でも報告された。

その後、日本でも行った18歳以上の一般社会人女性を対象にしたアンケート調査と同様のもので、1994年6月に台湾の18歳以上の一般社会人女性を対象に調査を実施した。この調査結果に基づいて1995年8月に台湾の女性に対して面接調査を行い、1996年10月「日本と台湾の女性のスポーツ参加に関する国際比較～18歳以上の一般社会人女性を対象にして～」『福島大学地域研究 第8巻 第2号』を報告した。この報告書も中国語に翻訳して、台湾で発表の予定である。

また、この間1996年5月、台湾で開催された「1996 International Conference on Sport Science and Physical Education」で「台湾の女性の生涯スポーツに関する研究～台湾と日本の女子学生のスポーツ参加の比較より～」と題して、ポスター発表を行った。

本報告書は、これら一連の研究調査を実施する過程

において、1995年8月に行った調査票による指示的面接調査と聴取調査(以下、面接調査と略す)の両者を織りまぜながら、台湾の女性の日常生活におけるスポーツ活動の実状を紀行文風に紹介するものである。

以下、面接調査に関わる項目について記しておく。

調査時期：1995年8月3～4日

調査地：台北市、台中市(詳細は本文中に掲載)

調査対象者：表1、表2、表3、表4(聴取調査の対象者を含む)

調査協力者：周 仲忽(国立台湾工業技術学院教授)
 莊 文風、蕭 美珠(国立台湾工業技術学院講師)

黄 淑貞(私立東海大学講師)

黄 宝琴(周教授婦人)

表1 年齢別対象者

	人 数	%
18 ～ 29 才	32	33.0
30 ～ 39 才	18	18.6
40 ～ 49 才	25	25.8
50 才 以 上	22	22.7
計	97	100.0

表2 職業別対象者

	人 数	%
民間の会社	24	24.7
公務員	5	5.6
自営業	11	11.3
パートタイマー	3	3.1
無職	2	2.1
主婦専業	41	42.3
その他	11	11.3
計	97	100.0

表3 既婚・未婚別対象者

	人 数	%
既 婚	62	63.9
未 婚	35	36.1
計	97	100.0

表4 主婦専業・有職者別対象者

	人数	%
主婦専業	41	48.8
有職者	43	51.2
計	84	100.0

1. 8月2日(晴れ)

8月2日、成田空港午後4時発、キャセイパシフィック航空451便にて一路台北に飛び立った。機内で時計の針を1時間戻し、台湾時間午後6時30分、約3時間半で無事中正国際空港に到着した。共同研究者である周教授の迎えを受け、台北市内へと向かった。

台北市内のレストランに午後8時30分頃到着し、調査協力者や周教授の知人らの暖かい歓迎を受け、台湾の美味に舌鼓を打ちながら調査の打ち合わせを行った。会食後、ホテルにチェックインし、翌朝早くからの調査の準備を済ませて眠りに就いた。

2. 8月3日(晴れ)

① Sun Yet-sen Memorial Hall (國父紀念館)

午前6時頃ホテルに、車で周教授夫妻が迎えに来られ、最初の調査地である國父紀念館広場に向かった。約15分程で目的地に着いた。

日中は観光客の姿ばかりであるが、それに変わっての光景には目を見張るばかりであった。老若男女、それぞれのスタイルで、しかも一人であったり、二人であったり、数十人であったり、思い思いに体を動かして汗をかいているのである。このような光景には、以前東京の駒沢公園で出合ったことがあるが、それ以上の人数と活気であった。

写真1はジャズダンスで汗をかいているグループである。中段で音楽に合わせて踊っている4人の女性はジャズダンスを得意とするものであろうか、自然とこのような隊形が成り立つとのことであった。広場にいらる市民は、4人の動きに合わせてジャズダンスを踊っている。

写真2は隣のグループで、ジャズダンスとはまた違う健康体操のような運動をしながら汗をかいている。

写真3はジャズダンスのグループに向かって左側でバドミントンをしているグループである。彼らは簡易のネットを持参して汗びっしょりになるまで楽しんでいた。しばらく彼らのプレイを見ていたが、なかなかの腕前であった。

社交ダンスを楽しんでいた年齢不詳(教えてもらえ



写真1 國父紀念館広場



写真2 國父紀念館広場



写真3 國父紀念館広場

なかった)の女性にインタビューすることができた。彼女は社交ダンスのグループに入ってから4~5年になるが、ほとんど毎日来ているそうだ。グループの中には社交ダンスの講師もおり、月々400圓(以下、台湾圓で表示する。為替レートはおよそ日本円4:台湾圓1)を支払っているが、支払いは任意だという。また、彼女は社交ダンスの他に体操、太極拳も行っているそうで、その理由は「友達が出来るから、友達との交流」であり、行えるようになったのは「子どもが大きくなったから」と答えていた。

最初の面接調査も終わる頃、回りの人影はまばらになり、市民は汗を拭きながらそれぞれ家路についていた。時間は午前7時過ぎであった。

私達は國父紀念館広場の入り口付近にあったマクドナルドで簡単な朝食を済ませたが、そこの賑わいにはこれまたびっくりさせられた。台湾では屋台やファーストフードなどを利用して朝食を済ませる人々が多いという。それは親子連れからサラリーマン、学生そして高齢者にまで至っているのである。

また、台中の面接調査でも感じられたことであるが、非常に主婦の参加が多かった。日本の主婦の朝は戦場と化するのが一般的のようであるが、台湾は必ずしもそうではないようである。日本と台湾の1日の生活時間における家事労働時間をみると、その差は専業主婦で日本の女性の方が2時間も長い（「日本と台湾の女性のスポーツ参加に関する国際比較」新谷を参照）。その差の一部がこの外食に表れているのではないだろうか。

② 雅姿エアロビクス教室

周教授の研究室で少し休んだ後、今度は周教授と二人で荘先生から紹介を受けた雅姿エアロビクス教室へ面接調査に出かけた。このエアロビクス教室は台湾大学正門前の交通量の多い所に位置した雑居ビルの中にある。前もって面接調査の了解を得ていたため、女性店長は快く私達を迎えてくれた。

最初にインタビューした女性は小学校の先生であった。年齢は聞かなかったが30代後半位と思われた。彼女はこのビルの近くに居住し、ここ3年毎日のように来ている。当日は夏休みのため午前中に来ていたが、普段は学校が終わった後、夕方約1時間程教室に通い汗をかいているそうである。

教室に通っている目的は「精神的にリラックスするため」であり、「動ける限りいつまでも続ける」と張り切っていた。仕事の後で毎日体を動かして疲れないかという質問に対して「かえって元気になり、仕事はかどる」という返事が返ってきた。夫の理解もあるそうで、意欲的に取り組んでいる姿勢がみられた。

料金はメンバーで年間16,000圓。「毎日来ているので安いと思います」と答えていた。エアロビクスの他には学校での体操の授業以外、1週間に2回位ジョギングをしているという。

次にインタビューした女性は、大学を卒業して4年位になる銀行員である。彼女は1週間に2回程、車で

このエアロビクス教室に来ている。彼女の目的は「健康のため」であり、その他水泳を3～4年位行っているという。

毎日エアロビクスをしていて健康そうな女性店長さんの話によると、ここに来るほとんどの人達の目的が「痩せたいため」だそうである。しかも、長期の人達が多く、来客層も学生から主婦専業、勤め人、自営業と幅広い。

日本で「エアロビクス」というと、カラフルなレオタード姿のすなりとした女性が、鏡張りの教室で軽快に体を動かしている様子が連想される。映像でもしばしば映し出される光景だ。彼女達の目的もプロポーションと健康の維持ではあるだろう。しかし、どことなく鏡に映る自らの姿に見とれているのではないか（ナルシズム）と感じる光景でもある。これに対して、台湾の女性のエアロビクスは、レオタードと鏡という道具立ては同じであっても、もっと切実に「痩せたい」という目的を持ってひたむきに運動に取り組んでいるような印象を受けた。つまり、「健康」が「ファッション」に踊らされていないように感じたのだが、どうだろうか。

③ 碧遙青島ゴルフ練習場

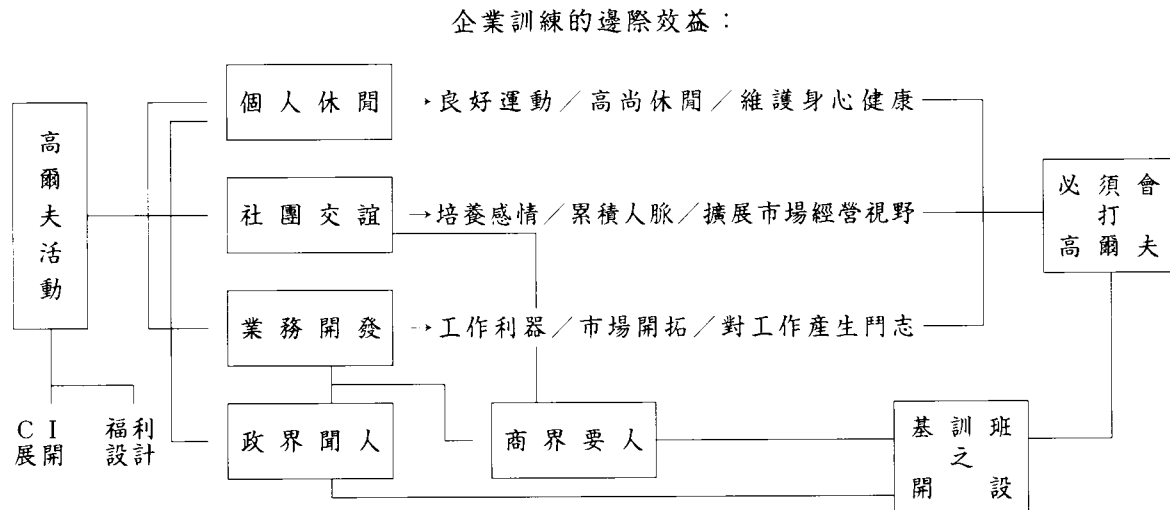
昼食は国立台湾大学構内にある、福華大飯店経営のレストランでとった。このレストランは非常に美味しいということで、昼食時は満杯である。学生や教職員だけでなく、一般市民も大いに利用しているところが一風変わっている。席を予約するには数日前からでなければ取れないほどの人気だそうである。また、バイキング方式で和洋中華と種類も豊富で、しかも食べ放題である。料金は日本円にして一人2,000円位だそうである。食べ放題であることも手伝って、皆さん食べるは食べるは、台湾の人達の食欲旺盛さには驚くばかりであった。

昼食後、荘先生が毎日ゴルフの練習に行っているという、碧遙青島ゴルフ練習場へ面接調査の場所を移した。昼過ぎということもあって練習をしている人はまばらであった。まばらな中にも中年の女性が数名一生懸命に練習をしていた。

練習をしている女性がなかなか休憩に入らないため、インタビューをするタイミングがつかめず、女性の従業員の方から話を聞くことにした。

この女性従業員は大学を卒業して1年になるが、ゴルフの練習がしたくて他の会社を辞めて入ったそうで

図1 YMCA ゴルフ教室パンフレット(一部)



ある。ゴルフをするようになったのは「健康に良いから、空気がいいから」、また「ゴルフには男女差がないから」とも答えてくれた。

このゴルフ練習場の利用者の内、女性は5分の1程度で、その内ほとんどが中年以上で、若い女性は少ないという。これはゴルフの「料金(プレイ費)が高いからでしょう」と言っていた。しかし、「そのうち台湾のゴルフ人口も増加していくと思います」とも言っていた。

このゴルフ練習場の利用料金は1箱30コで50圓(土、日は60圓)である。ちなみに東京郊外(八王子市)にあるゴルフ練習場の場合、入場料300圓、1箱50コで500圓(土、日は40コで600圓)である。また、福島市郊外の住宅街にある練習場の場合、入場料350圓、1箱60コで500圓(土、日も同じ)という料金である。台湾でのゴルフの練習料金は特別高いという程のものではなく、これから普及していくという段階のようである。

現在、日本のゴルフ人口は約1,300万人にも達すると言われている。総理府発行の月刊世論調査(平成7年3月号)によると「今後行いたい運動・スポーツの種目」で、ゴルフは全体で第3位(男子では第2位)にランクされ、国民の生活の中に広く浸透してきていると言えるだろう。

図1は台中市にあるYMCAのゴルフ教室のパンフレットの一部分である。このP.R.からうかがい知れることは、ゴルフは「個人の休息における運動や健康維持」、「会社や団体間の交流を図り、市場経営の視野を拡張し」、「業務開発や市場開拓など仕事に対して有利になり」、また「政界の有名な人や商業界の重要な人



写真4 碧遥青島ゴルフ練習場

達と顔見知りになる」のに効果があるということである。そのために、「ゴルフの基礎訓練の教室」を作り、個人も企業も「ゴルフをできることが必要」である。以前(今も残っているであろう)日本で見受けられた、接待ゴルフのためにゴルフの練習をするというのが、現在の台湾のゴルフなのであろうか。

写真4は碧遥青島ゴルフ練習場でゴルフの練習をしている周教授である。

④ 中華民国大專院校体育総会

ゴルフで少し汗をかいた後、私達は台湾の各種スポーツの事務局が入居しているビルへと向かった。この中華民国大專院校体育総会は台湾のスポーツに関する学術、各種大会の計画、選手の選抜などを一手に引き受けている、いわば体育関係の総本山のようなものである。

ここの事務職員である50歳代と20歳代の女性にインタビューすることができた。まず、50歳代の女性は2

～3年前からゴルフを始めており、練習は週2～3回で、1～2カ月に1回コースに出るという。ゴルフを行うための条件には恵まれているようである。スポーツをした後「仕事に張りが出る」ので今後も継続して行っていきたいと言っていた。しかし「時間が足りない」と嘆いてもいた。先のゴルフ練習場でも指摘していたが、やはりゴルフを行う女性は主に中年以上で、若い人は少ないのが実状らしい。

台湾のスポーツ施設や指導者について尋ねたら、「スポーツ施設の不足についてはあまり感じたことはない」が「時々指導者の必要性を感じることもある」と答えた。また、台湾のスポーツ政策について「ナショナルチームの養成に力を入れていて、一般の人々のスポーツにはあまり力を入れていないような気がする」という不満ものぞかせていた。スポーツ人口については人口比を差し引いても「日本の方が多いと思う」、また「スポーツの全体的な盛り上がりも日本の方が大きく、うらやましく思う」と言っていた。

二人目の女性は20歳代でバレーボールをしている。練習は土曜日、日曜日学校で行っており、本人はバレーボールのチームには入っていないが、あるチームと一緒に練習をさせてもらっているという。しかし、様々な条件が重なって「将来的には継続できないでしょう」と残念がっていた。

台湾のスポーツ施設や指導者について尋ねたら、「健康のために行っているのだから、私個人としてはあまり気に止めたことがない」と答えていた。スポーツを行う目的によってスポーツ施設や指導者の受け止め方も違って来るようである。それら全てを満足させるようなスポーツ政策は可能なのであろうか。

初日の面接調査を一通り終え、私達は車で高速道路をとばして次の調査地である台中市に向かった。台中市のホテルで仕事の関係で先に来ていた周教授夫人と合流した。そして、翌日面接調査を手伝っていただく籙先生、黄先生達と一緒にこれまた美味しい中華料理を味わいながら、明朝の面接調査の打ち合わせを行った。

3. 8月4日（晴れ）

① Taiwan Museum of Art（省立美術館）

昨夜来の雨も上がり、さわやかな朝である。ホテルを6時過ぎに出発し、途中道に迷ってしまったが、6時40分頃には美術館に到着した。芝生や花々を敷き詰めた美しく広い美術館の広場は、もう既に思い思いに

体を動かしている市民でいっぱいであった。

写真5は一人で太極拳を行っている男性で、真剣そのものであった。近くにはもう少し腕のいい(?)男性が太極拳を行っており、その男性からいろいろアドバイスを受けながら行っていた。

写真6は社交ダンスに興じている男女のグループである。カセットレコーダーの音楽に合わせて楽しそうに踊っていた。この中にも講師がおり、その講師の指導を受けながら踊っていた。

写真7は拍打（扇子のようなものを持って体を動かす）を行っている女性のグループである。ここにも講



写真5 省立美術館駐車場



写真6 省立美術館駐車場



写真7 省立美術館駐車場

師がいて、その講師の動きに合わせて体を楽しそうに動かしていた。

最初にインタビューしたのは自営業の女性であった。約35人位の仲間と社交ダンスをしている彼女は、日曜日を除いて毎朝5時半から6時半頃までここに来ている。日曜日は郊外に出かけて楽しんでいるという。彼女が社交ダンスをする目的は「健康よりスタイルが良くなりたいから」だそうである。また、「体を動かした後、仕事に精が出るし、来なかったら一日気分が悪い」とまで言っていた。これはランニング・アディクト（中毒症）にかかっているのとあまり変わらない感じがした。

二人目にインタビューしたのは、日本語を上手に話すことが出来、70歳というのが信じられない程若々しく見える女性であった。彼女は写真7の拍打を15年以上も続けており、これからも続けていくと張り切っていた。ここに来ている目的は「健康を維持するため」、「友達は自然にできる」、「若い人はもっとリズムのあるものを、年配はゆっくりしたものを」と、久しぶりに日本語を話せて嬉しいと言いながらいろいろ語ってくれた。

美術館広場での面接調査を終え、私達は写真8に見られるような店で朝食をとった。このようなタイプの店は至る所にあり、店先で売られている様々な食品（揚げパン、肉類、スープ）を買って帰る者もいれば、奥に備えてあるテーブルに座って食べていく者もいる。私達はセルフサービスでテーブルに座って、台湾式朝食をとった。



写真8 台中市内の食品店

朝食後、次の面接調査地に行く前に、黄先生が勤めている私立東海大学（ミッション系）に立ち寄った。この大学の敷地は非常に広く、緑も多い。写真9は大学構内に建てられている教会である。写真10は校舎

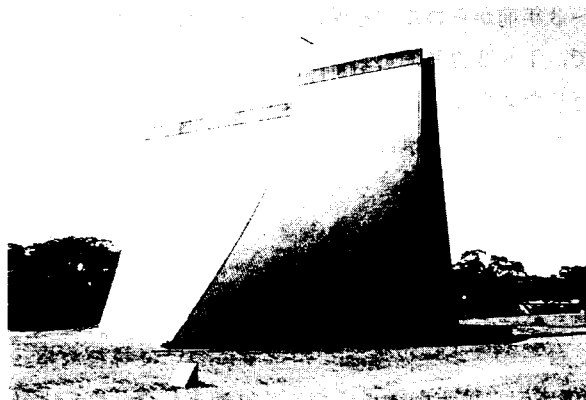


写真9 大学構内にある教会



写真10 大学構内の並木道

（木造）と校舎の間にある並木道で、これらの木々にはリスが跳び回っていた。

② YMCA エアロビクス教室

私立東海大学を後にして、私達は台中市内にあるYMCAのエアロビクス教室を訪ねた。黄先生が予め面接調査の了解を得ておいて下さったのでスムーズに調査を進めることができた。

最初にインタビューしたのは二人の子どもを持つ主婦である。彼女はここに通いだして13年になる。途中足を悪くして（筋肉萎縮小）3年間程休んだが、今は少しずつ良くなってきているという。1週間に3回程来るが、目的は「自分の健康のため」である。しかし友達ができるようになり、今では友達とコミュニケーションを図る方が主となってきているという。月謝は一月1,500円であるが「安い」と受け止めていた。また、夫も賛成してくれているし、子ども達も時々一緒に来るという。

台湾のスポーツ施設について尋ねたら、「公共施設が少ない」、それに「学校の施設の開放を望む」と答えていた。これから家に帰って昼食の準備をしますと言って帰って行った。

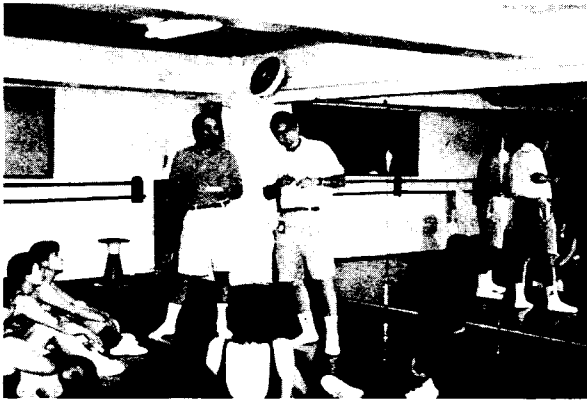


写真11 YMCAエアロビクス教室

次にインタビューしたのは、エアロビクスの他に縄跳び、ヨガもしていて「スポーツは何でもよい」、「スポーツは三食と同じ」と答えてくれた行動派の女性であった。彼女は6～7年ここに通っているが、目的は「太るのが怖いから」と言う。エアロビクスをしても太る、休むともっと太る、だからそれ以上しなければならないと切実なまでに語ってくれた。スポーツは半ば趣味でやってきたが、今では友達付き合いが主となっている。

これからも継続していくが、今スポーツをするうえで障害になっているのは夫や母からの理解が得にくいことだと言う。「意識革命が必要だ」、「家からのプレッシャーをエアロビクスで発散している」と言っていた女性であった。様々である。

写真11はYMCAエアロビクス教室での面接調査の様子である。

台中での面接調査を終え、私達は台北へと帰途についたが、高速道路で思わぬ大渋滞に巻き込まれ、2時間も立ち往生するという経験をした。

4. 8月5日（晴れ）

快晴である。調査を順調に進めることができたのも天気が味方をしてくれたからであろう。台湾での目的も一通り終え、この日は一人で台北市内を散策した。

Chiang Kai-shek Memorial Hall（中正紀念堂）の広場では、子ども達の3 on 3（バスケット）の大会が行われていた（写真12）。簡易のバスケットボードを設置し、何十チームもの子ども達が参加していて、大変な賑わいであった。日本にみられる各地域の育成会間のスポーツ大会のようなものであろう。

龍山寺（写真13）でお参りをした後、その近くの市場の屋台でビールを飲みながら、今回の面接調査を振り返ってみた。

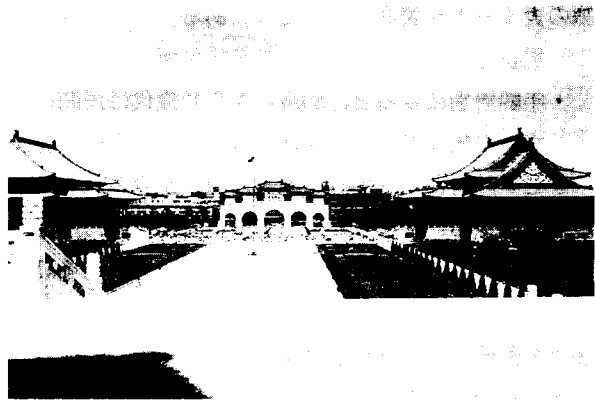


写真12 中正紀念堂広場



写真13 龍山寺

台湾の女性は（勿論）全てではないがスポーツというものを、“型にはめられたものとしての運動”として意識しているのではなく、“体を動かす”という人間本来に備わっているものとして受け止めているように感じた。それは広場での思い思いの姿で体を動かすことであったり、ファッションにこだわらず自分なりに汗をかくというスタイルに見ることができる。

しかし、概して広場で汗を流している女性達に比べて、教室などに通っている女性は、様々な面（生活時間、経済条件、家族の理解）で恵まれた条件下にあるという印象を受けた。生活の一部としての運動に汗を流す人々、目的を持ってスポーツ教室に通う人々、これらの人々の姿に日本の女性のスポーツ活動とは違った面が感じられた。

夕食は一人でとる予定であったが、周教授の案内で台北で一番美味しいと評判の飲茶料理店に行き、今回の面接調査の成功を肴に老酒の杯を重ねた。

おわりに

今回の面接調査で対象となったのは表1～4の通り97名である。この対象者に指示的面接調査を行った結果を箇条書きにしておわりとしたい。調査結果は資料

編の表1-1～表9-2の通りである。

1) 現在行っているスポーツの実施場所

- 年齢層別にみると、30歳代から40歳代は民間のスポーツ施設であり、50歳代は公共のスポーツ施設と年齢層によって利用施設の違いが見られる。
- 公共スポーツ施設の利用者は、既婚女性、主婦専業に多く、置かれている立場によって利用施設も変わる。

2) 1週間のスポーツ活動量

- 年齢層別に見ると、年を重ねる程1週間の活動量が多くなり、50歳以上の約41%は毎日行っている。逆に若年層ではあまりしないが多くなっている。
- 既婚者で主婦専業の女性に活動量が多く、未婚、有職女性にあまりしない傾向がみられる。

3) スポーツを行っている理由

- 年齢層、未・既婚、主婦・有職者別にみると若干の相違はみられるが、ほとんどが健康によいからである。

4) 台湾の女性はスポーツを行っている方か

- 年齢層別にみると、若年層に行っていないと思う女性が多く、高年層はその逆の傾向がみられる。
- 未・既婚、主婦・有職者別にみると、未婚者、有職者にあまり行っていないと思う女性が多い。

5) 台湾の女性がスポーツを行うとき、時間的条件は整っているか

- 全体的にみると、あまり整っていないと感じているが、特に30歳代、40歳代に多い。
- また、有職者の女性にその傾向が強い。

6) 台湾の女性がスポーツを行うとき、経済的条件は整っているか

- 年齢層別、未・既婚、主婦・有職者別にみてもほとんどの女性が整っていると感じている。

7) 台湾の女性がスポーツを行うとき、施設的条件は整っているか

- 年齢層別にみると、30歳代にあまり整っていないと感じる者が多い。逆に20歳代の半数は整っていると感じている。
- 未婚者、有職者にあまり整っていないと感じてい

る者が多い。

8) 台湾のスポーツが発展するには何が必要か

- 全体的にみると、スポーツ施設、次いで自由時間となるが、特に若年層、未婚者、有職者にスポーツ施設の必要性を強く感じている。

9) 台湾での国際的なスポーツ大会の開催をどう思うか

- 全体的にみると、ほとんどの女性が賛成と答えている。
- 賛成の理由の主なもの、国民に運動への関心を高めることができる、外交の発展に寄与し、国際的な地位を高めることができる、台湾を海外に紹介することができる等である。
- 反対の理由の主なもの、国際的なスポーツ施設が不足している、政治が介入する等である。

台湾に5回程足を運んだが、訪れる度に感じられることは、遠い過去を思わせるような懐かしさが蘇ってくることである。高層マンション、高速道路の突貫工事等、それは日本の1960年代のまさに高度経済成長期を彷彿させるものである。

しかし、そのように感じられる時代であるにも関わらず、台湾の女性の生活の中には、スポーツがその一部であるかのように位置づけられていることである。勿論、これは面接調査で出会った人々を前提としているのであるが、1960年代、日本の女性の生活の中にスポーツがどれ程浸透していたであろうか。台湾の女性には飾りや派手さは見られなかったが、スポーツを楽しんでいた。今、私達日本人に求められているのは“生涯スポーツとは何か”を再考することではないだろうか。

そのようなことを機内で思いながら忙しい日本へと帰途についた。

最後に、全てに渡ってお世話になり、中正国際空港まで見送っていただいた周仲忽教授夫妻に改めて感謝の気持ちを表すとともに、面接調査に協力していただいた荘文風先生、籾美珠先生、黄淑貞先生に感謝を申し上げたい。

〈資料編〉

指示的面接調査の質問項目と結果

質問1) 現在行っているスポーツの実施場所は主にどこですか。

表1-1 年齢層別

	18～29才		30～39才		40～49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
民間のスポーツ施設	11	34.4	10	55.6	12	48.0	2	9.1	35	36.1
公共のスポーツ施設	7	21.9	5	27.8	12	48.0	18	81.8	42	43.3
職場のスポーツ施設	8	25.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	9	9.3
学 校	4	12.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	4.1
そ の 他	1	3.1	1	5.6	1	4.0	0	0.0	3	3.1
不 明	1	3.1	1	5.6	0	0.0	2	9.1	4	4.1
計	32		18		25		22		97	

表1-2 未・既婚、主婦・有職者別

	未 婚		既 婚		主婦専業		有 職 者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
民間のスポーツ施設	14	40.0	21	33.9	16	39.0	13	30.2
公共のスポーツ施設	9	25.7	32	51.6	23	56.1	12	27.9
職場のスポーツ施設	6	17.1	5	8.1	0	0.0	10	23.3
学 校	3	8.6	0	0.0	0	0.0	3	7.0
そ の 他	2	5.7	1	1.6	0	0.0	3	7.0
不 明	1	2.9	3	4.8	2	4.9	2	4.7
計	35		62		41		43	

質問2) 現在行っているスポーツを1週間にどの位行いますか。

表2-1 年齢層別

	18～29才		30～39才		40～49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
毎 日	6	18.8	3	16.7	3	12.0	9	40.9	21	21.6
5 ～ 6 回	3	9.4	3	16.7	7	28.0	8	36.4	21	21.6
4 ～ 5 回	1	3.1	0	0.0	2	8.0	2	9.1	5	5.2
3 ～ 4 回	8	25.0	7	38.9	7	28.0	0	0.0	22	22.7
2 ～ 3 回	2	6.3	1	5.6	4	16.0	0	0.0	7	7.2
1 ～ 2 回	2	6.3	1	5.6	1	4.0	1	4.5	5	5.2
1 回	1	3.1	0	0.0	0	0.0	1	4.5	2	2.1
あまりしない	9	28.1	2	11.1	0	0.0	0	0.0	11	11.3
不 明	0	0.0	1	5.6	1	4.0	1	4.5	3	3.1
計	32		18		25		22		97	

表2-2 未・既婚、主婦・有職者別

	未 婚		既 婚		主婦専業		有 職 者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
毎 日	6	17.1	14	22.6	9	22.0	6	14.0
5 ～ 6 回	4	11.4	16	25.8	11	26.8	6	14.0
4 ～ 5 回	0	0.0	5	8.1	3	7.3	3	7.0
3 ～ 4 回	8	22.9	14	22.6	12	29.3	6	14.0
2 ～ 3 回	3	8.6	4	6.5	3	7.3	4	9.3
1 ～ 2 回	3	8.6	4	6.5	1	2.4	5	11.6
1 回	1	2.9	1	1.6	1	2.4	1	2.3
あまりしない	9	25.7	2	3.2	0	0.0	11	25.6
不 明	1	2.9	2	3.2	1	2.4	1	2.3
計	35		62		41		43	

質問3) スポーツを行う理由は何ですか。

表3-1 年齢層別

	18～29才		30～39才		40～49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
スポーツが好きだから	15	46.9	10	55.6	11	44.0	8	36.4	44	45.4
友達ができるから	4	12.5	7	38.9	9	36.0	7	31.8	27	27.8
健康によいから	21	65.6	16	88.9	23	92.0	19	86.4	79	81.4
格好が良いから	18	56.3	10	55.6	14	56.0	5	22.7	47	48.5
他にすることがないから	3	9.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	3.1
友達に誘われたから	1	3.1	0	0.0	0	0.0	1	4.5	2	2.1
何 と な く	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
そ の 他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.5	1	1.0
計	32		18		25		22		97	

表3-2 未・既婚、主婦・有職者別

	未 婚		既 婚		主婦専業		有 職 者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
スポーツが好きだから	15	42.9	29	46.8	16	39.0	20	46.5
友達ができるから	3	8.6	23	37.1	14	34.1	9	20.9
健康によいから	26	74.3	53	85.5	37	90.2	31	72.1
格好が良いから	16	45.7	30	48.4	16	39.0	21	48.8
他にすることがないから	3	8.6	0	0.0	0	0.0	1	2.3
友達に誘われたから	1	2.9	1	1.6	1	2.4	1	2.3
何 と な く	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
そ の 他	2	5.7	2	3.2	0	0.0	2	4.7
不 明	0	0.0	1	1.6	1	2.4	0	0.0
計	35		62		41		43	

質問4) 台湾の女性は、他の国に比べてスポーツを行っている方だと思いますか。

表4-1 年齢層別

	18~29才		30~39才		40~49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
行っている	12	37.5	5	27.8	11	44.0	15	68.2	43	44.3
あまり行っていない	20	62.5	11	61.1	14	56.0	5	22.7	50	51.5
ほとんど行っていない	0	0.0	2	11.1	0	0.0	0	0.0	2	2.1
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	9.1	2	2.1
計	32		18		25		22		97	

表4-2 未・既婚, 主婦・有職者別

	未 婚		既 婚		主婦専業		有 職 者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
行っている	11	31.4	32	51.6	24	58.5	14	32.6
あまり行っていない	23	65.7	27	43.5	14	34.1	29	67.4
ほとんど行っていない	1	2.9	1	1.6	1	2.4	0	0.0
不明	0	0.0	2	3.2	2	4.9	0	0.0
計	35		62		41		43	

質問5) 台湾の女性がスポーツを行うとき、時間的条件は整っていると思いますか。

表5-1 年齢層別

	18~29才		30~39才		40~49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
整っている	13	40.6	7	38.9	9	36.0	7	31.8	36	37.1
あまり整っていない	17	53.1	11	61.1	15	60.0	11	50.0	54	55.7
ほとんど整っていない	2	6.3	0	0.0	1	4.0	1	4.5	4	4.1
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	13.6	3	3.1
計	32		18		25		22		97	

表5-2 未・既婚, 主婦・有職者別

	未 婚		既 婚		主婦専業		有 職 者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
整っている	14	40.0	22	35.5	17	41.5	14	32.6
あまり整っていない	19	54.3	35	56.5	21	51.2	27	62.8
ほとんど整っていない	2	5.7	2	3.2	0	0.0	2	4.7
不明	0	0.0	3	4.8	3	7.3	0	0.0
計	35		62		41		43	

質問6) 台湾の女性がスポーツを行うとき、経済的条件は整っていると思いますか。

表6-1 年齢層別

	18~29才		30~39才		40~49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
整っている	25	78.1	12	66.7	17	68.0	11	50.0	65	67.0
あまり整っていない	7	21.9	5	27.8	6	24.0	2	9.1	20	20.6
ほとんど整っていない	0	0.0	1	5.6	1	4.0	1	4.5	3	3.1
不明	0	0.0	0	0.0	1	4.0	8	36.4	9	9.3
計	32		18		25		22		97	

表6-2 未・既婚、主婦・有職者別

	未婚		既婚		主婦専業		有職者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
整っている	27	77.1	38	61.3	24	58.5	32	74.4
あまり整っていない	8	22.9	12	19.4	6	14.6	11	25.6
ほとんど整っていない	0	0.0	3	4.8	2	4.9	0	0.0
不明	0	0.0	9	14.5	9	22.0	0	0.0
計	35		62		41		43	

質問7) 台湾の女性がスポーツを行うとき、施設的条件は整っていると思いますか。

表7-1 年齢層別

	18~29才		30~39才		40~49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
整っている	16	50.0	6	33.3	7	28.0	6	27.3	35	36.1
あまり整っていない	14	43.8	12	66.7	11	44.0	5	22.7	42	43.3
ほとんど整っていない	2	6.3	0	0.0	4	16.0	2	9.1	8	8.2
不明	0	0.0	0	0.0	3	12.0	9	40.9	12	12.4
計	32		18		25		22		97	

表7-2 未・既婚、主婦・有職者別

	未婚		既婚		主婦専業		有職者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
整っている	13	37.1	23	37.1	14	34.1	15	34.9
あまり整っていない	20	57.1	22	35.5	15	36.6	22	51.2
ほとんど整っていない	2	5.7	5	8.1	0	0.0	6	14.0
不明	0	0.0	12	19.4	12	29.3	0	0.0
計	35		62		41		43	

質問8) 台湾のスポーツが発展するには何が必要だと思いますか。

表8-1 年齢層別

	18～29才		30～39才		40～49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
自由時間	10	31.3	8	44.4	11	44.0	10	45.5	39	40.2
スポーツ施設	28	87.5	14	77.8	19	76.0	8	36.4	69	71.1
スポーツ指導者	9	28.1	5	27.8	6	24.0	4	18.2	24	24.7
国の政策	7	21.9	4	22.2	5	20.0	3	13.6	19	19.6
学校教育の充実	8	25.0	5	27.8	7	28.0	5	22.7	25	25.8
広報活動	8	25.0	3	16.7	3	12.0	0	0.0	14	14.4
国際試合	1	3.1	1	5.6	2	8.0	0	0.0	4	4.1
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	1	3.1	0	0.0	1	4.0	1	4.5	3	3.1
計	32		18		25		22		97	

表8-2 未・既婚、主婦・有職者別

	未 婚		既 婚		主婦専業		有 職 者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
自由時間	11	31.4	27	43.5	19	46.3	15	34.9
スポーツ施設	31	88.6	39	62.9	25	61.0	32	74.4
スポーツ指導者	8	22.9	16	25.8	11	26.8	10	23.3
国の政策	8	22.9	11	17.7	7	17.1	10	23.3
学校教育の充実	9	25.7	16	25.8	11	26.8	9	20.9
広報活動	5	14.3	9	14.5	3	7.3	9	20.9
国際試合	1	2.9	3	4.8	1	2.4	3	7.0
その他	0	0.0	1	1.6	0	0.0	1	2.3
不明	1	2.9	3	4.8	2	4.9	0	0.0
計	35		62		41		43	

質問9) 台湾で国際的な大会を開催することに賛成ですか、反対ですか。

表9-1 年齢層別

	18～29才		30～39才		40～49才		50才以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
賛 成	27	84.4	15	83.3	21	84.0	18	81.8	81	83.5
反 対	4	12.5	1	5.6	3	12.0	1	4.5	9	9.3
無 記 不 明	1	3.1	2	11.1	1	4.0	3	13.6	7	7.2
計	32		18		25		22		97	

表9-2 未・既婚, 主婦・有職者別

	未 婚		既 婚		主婦専業		有 職 者	
	人	%	人	%	人	%	人	%
賛 成	26	74.3	54	87.1	33	80.5	36	83.7
反 対	6	17.1	4	6.5	4	9.8	5	11.6
無 記 不 明	3	8.6	4	6.5	4	9.8	2	4.7
計	35		62		41		43	